

様式第 11 号

博士論文審査結果報告書

2023 年 1 月 18 日

神奈川県立保健福祉大学大学院  
保健福祉学研究科長 殿

博士論文審査員

主査 遠又靖丈  
副査 田中和美  
副査 平瀬達哉

博士論文審査及び最終試験の結果について、次のとおり報告します。

申請者氏名	村仲 隼一郎	学籍番号	62020006
論文題目	回復期リハビリテーション病棟における脳卒中者の Quality of Life に基づく作業療法実践の構築に向けた研究		
審査年月日	2023 年 1 月 18 日		
論文審査及び最終試験結果	<div>合格</div> ・不合格		
添付書類	1 博士論文審査及び最終試験の結果の要旨（様式第 12 号） 2 論文の要旨（様式第 8 号）		

## 博士論文審査及び最終試験の結果の要旨

氏 名	村仲 隼一郎		
論文題目	回復期リハビリテーション病棟における脳卒中者の Quality of Life に基づく作業療法実践の構築に向けた研究		
論文審査員	主査	遠又靖丈	
	副査	田中和美	
	副査	平瀬達哉	
<p>【論文審査の結果の要旨】</p> <p>本論文は、回復期リハビリテーション病棟における脳卒中者に対する作業療法実践における Quality of Life(QOL)に着目し、次の3つの主要課題を設定している；1つ目は本邦の作業療法領域における脳卒中者の QOL 概念の課題が明らかにすること、2つ目は我が国の脳卒中者に合った QOL 概念が不明瞭ですること、3つ目は回復期リハビリテーション病棟における効果指標としての QOL 評価が活用できるか明らかにすること。</p> <p>研究1として、47編の論文を網羅した文献研究を実施し、本邦の作業療法領域における脳卒中者の QOL 概念の課題を整理した。また研究2として、我が国におけるクライアントの QOL に対する作業療法実践の文献研究（38編の事例報告）を整理し QOL 指標の問題点を明らかにするとともに、研究3として作業療法の実証研究における QOL の定義と測定に関するスコーピングレビューとして 19編の介入研究から研究間での指標の違いがあることを明らかにした。さらに、研究4として脳卒中者の QOL に関する作業療法士の認識を質的記述的研究により検討し、【意味のある作業への適応】【良好な個人的原因帰属】、そして【家族の幸せと良好な人間関係】という作業療法士が脳卒中患者の QOL として共通認識している3つの概念を明らかにした。最後に、研究5として、脳卒中者に対するリハビリテーション実施時間数と回復期アウトカムおよび QOL との関連を横断研究によって検討し、リハビリテーションの実施状況・QOL・ADL・在院日数の相互関係から、作業療法の実践における QOL 評価の可能性を考察している。</p> <p>以上のように、主要課題に対する学術的・社会的に有用な検討内容を論文に含んでいると認められたため、博士論文として十分に値するものとして「合格」と判定した。</p>			

【最終試験の結果の要旨】

村仲隼一郎氏の博士論文審査は、主査を遠又靖丈准教授、副査を田中和美教授および平瀬達哉准教授として、2023 年 1 月 18 日(水) 18 時から実施され、約 25 分間の口頭発表および 25 分間の質疑応答が行われた。

はじめに研究 1～研究 5 に大別される研究内容が紹介され、口頭試問として特に研究 2 の我が国におけるクライアントの **QOL** に対する作業療法実践の文献研究（38 編の事例報告）と研究 5 の脳卒中者に対するリハビリテーション実施時間数と回復期アウトカムおよび **QOL** との関連についての横断研究の発表内容に対して、解釈の質疑が交わされた。また、研究 1～研究 5 を包括した場合の研究の課題点について 3 名の審査員から質疑があった。以上の質疑に対して、村仲隼一郎氏は全て適切に応答した。

その後の合議において主査、副査の計 3 名が満場一致で一連の内容が博士に相応するものであると認められたことから、最終試験を「合格」と判定した。